



学校経営におけるコンピュータ活用の実践的研究

福島市立金谷川小学校教頭 渡邊康郎

1. 研究の趣旨

学校教育におけるマイクロコンピュータの利用は大きく分けて、

- (1) 学習指導のための教具としての利用
- (2) 教師の指導計画作成等のための利用
- (3) 学校経営の援助のための利用

と、考えることができる。これらを通じて、マイクロコンピュータは、適切にかつ有効な場面に利用されることによって、従来の方法を豊かに補完するものとなることが期待される。

今までの本校での活用状況は次の通りである。

- (1) 学習者の成績管理や時間割編成など、学校管理運営に有効な活用を意図したCMI(Computer Management Instruction) 的活用が図られてきた。

- ① 教育計画・教育課程編成での活用。
- ② 学校からの案内・通知文作成・発送での活用。
- ③ 児童の成績・体力・身体状況・名簿管理での活用。
- ④ 公文書作成・発送での活用。
- ⑤ 職員の届出・願出等文書での活用。
- ⑥ 研修・教材研究等での活用。

- (2) 学習指導におけるコンピュータの活用として、学習の効果をあげるために教師の指導の手助けとして、又児童のひとり学習、ドリル学習として、児童に活用させ効果をあげるCAI(Computer Assisted Instruction) 的活用が図られてきた。

- ① 教科学習として、特に社会科、算数科での活用。
- ② クラブ活動での活用。

特に②での実践活用を継続してくると、児童のコンピュータに対するリテラシーの有無、

興味関心の有無が大きな影響を与えてくることがわかった。

また、学年の発達段階に調和した、コンピュータ・リテラシーについて系統的・段階的な指導がなされなければならないことを痛感した。

そこで、今年度は

- ① コンピュータの取り扱いを学ばせ、基礎能力を身につけさせる。
 - ② コンピュータによって学ぶこと、つまりコンピュータを教育の場で利用、活用する。
 - ③ コンピュータを補う学習により、コンピュータにも限界があることをはっきりさせ、欠けている部分をカバーする能力を身につける。
- ことを中心にした、コンピュータ・リテラシー(Computer Literacy) に焦点をあて、人間性豊かな児童を育てることを目標とし、教頭として学校経営の具体的な運営に位置づけ、構想・推進することによって、学校経営の充実を図りたいと考え本主題を設定した。

2. 研究の見とおし

コンピュータの活用に関する基礎的・基本的な能力を身につけさせるために、低学年からコンピュータの活用のしかたに慣れさせれば、学習効果をあげ学校経営が充実するであろう。

3. 研究の方法と対象

- (1) 研究の方法

- ① 本校におけるコンピュータ教育の現況把握。
- ② コンピュータに関する児童の実態調査分析。
- ③ コンピュータ・リテラシーに関する、低・中・高学年用マニュアル試作。
- ④ 実験授業による検証と考察。